



認証番号 0002470

エコアクション21 環境活動レポート 2024

【活動期間：2023年4月1日～2024年3月31日】



太平洋に沈む夕日と小名浜港



真っ青な空に映える白い社屋

株式会社アメニティいわき

目 次

1.	はじめに	3
2.	会社概要	4
3.	環境方針	6
4.	環境負荷の現状	7
5.	環境目標(3ヶ年)	7
6.	環境活動の主な取り組み	9
7.	2023年度環境活動計画の目標と実績	13
8.	環境活動計画の取組結果と評価及び次今後の取組計画	14
9.	表彰等	17
10.	SDGs宣言書を策定	18
11.	代表者の全体評価と見直しの結果	20
12.	環境関連法規への違反・訴訟等の有無	20
13.	許可の内容	21
14.	施設等の状況(収集運搬)	22
15.	廃棄物処理料金	23
16.	受託した廃棄物の処理量	24

1. はじめに

2011年3月11日――。

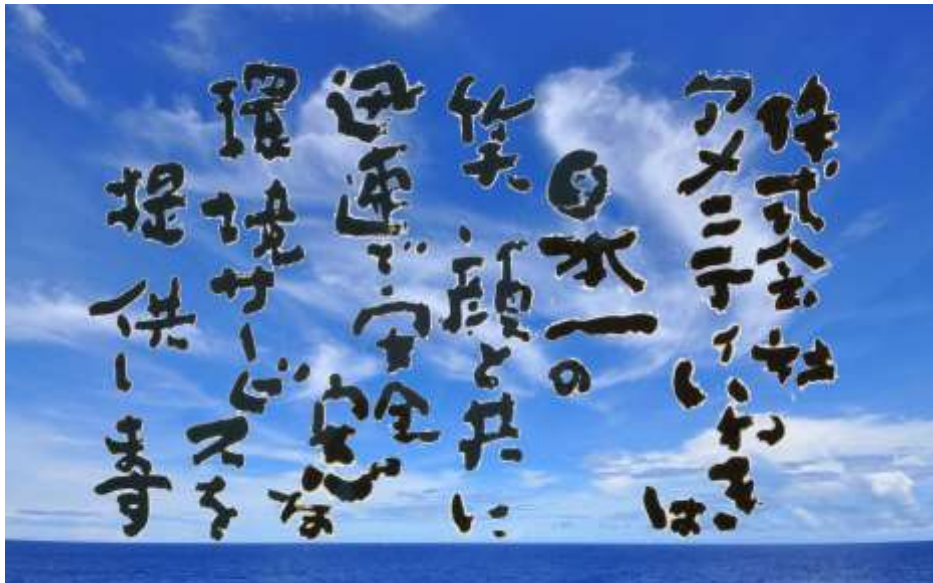
私たちは東日本大震災で被災し、それに続く原子力災害に、今もなお見舞われています。地震の最中はあまりの揺れの激しさに死をも予感いたしました。同級生の何人かは津波で家を失い、命を落としています。幸いなことに、私たちは微細な被害で全員無事に乗り越えることが出来ました。



現在もいわき市では、放射線のモニタリングポストが、444台(リアルタイム線量測定システム390台・可搬型モニタリングポスト54台)設置されています。測定値はネット上でリアルタイムに公表しています。また、福島第一原発内に保管されているALPS処理水についても、昨年政府は海洋放出を開始しました。私たちは、自然の驚異に畏怖の念を抱きつつ、未来を担う子供たちのために、放射能で汚れてしまった山を、川を、海を少しでも安心して暮らせるようにしたいと思います。必ず実現させると決意しています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

株式会社アメニティいわき

代表取締役 根本 宏



株式会社アメニティいわき 経営理念

2. 会社概要

- (1)事業所名 株式会社アメニティいわき
- (2)代表者 代表取締役社長 根本 宏(2003年5月31日就任)
- (3)所在地 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町5番地の9
- (4)法人設立 1967年4月1日(創業 1951年11月1日)
- (5)沿革 1951年11月 1日 磐城清掃社 設立 一般廃棄物収集運搬業
1967年 4月 1日 有限会社いわき清掃社設立 資本金 100万円
1978年 4月 1日 産業廃棄物収集運搬業・浄化槽保守点検業
1991年 4月 1日 株式会社アメニティいわきに組織変更
2002年 3月18日 ISO14001認証登録
2008年 5月14日 エコアクション21認証登録
- (6)資本金 1,000万円
- (7)その他の役員 取締役会長 根本 茂 (2003年5月31日就任)
取締役専務 根本 正 (2003年5月31日就任)
取締役 根本 綾 (2017年6月1日就任)
監査役 根本 やす子(2002年3月25日就任)

- (8)事業内容 <株式会社 アメニティいわき>
- ・一般廃棄物収集運搬業(し尿・ごみ)
 - ・産業廃棄物収集運搬業
 - ・浄化槽保守点検業、清掃業、工事業
 - ・機密文書出張裁断業務
 - ・不用品回収

- (9)グループ会社およびその事業内容

<有限会社 カンセイ>

- ・排水管高圧洗浄工事
- ・管工事業
- ・浄化槽保守点検業
- ・ビル管理に関する業務
- ・トイレ診断、トイレ施設に関する管理業務
- ・尿石防止剤、尿石除去剤販売

<有限会社 第一環境管理センター>

- ・SN式浄化槽汚泥濃縮車に関する業務
- ・浄化槽、浄化槽汚泥濃縮車に関係する環境製品の研究開発

暮らしを、まちな、もっとキレイに。



「アメニティいわきグループ」ロゴマーク

(10)環境管理責任者の氏名および連絡先

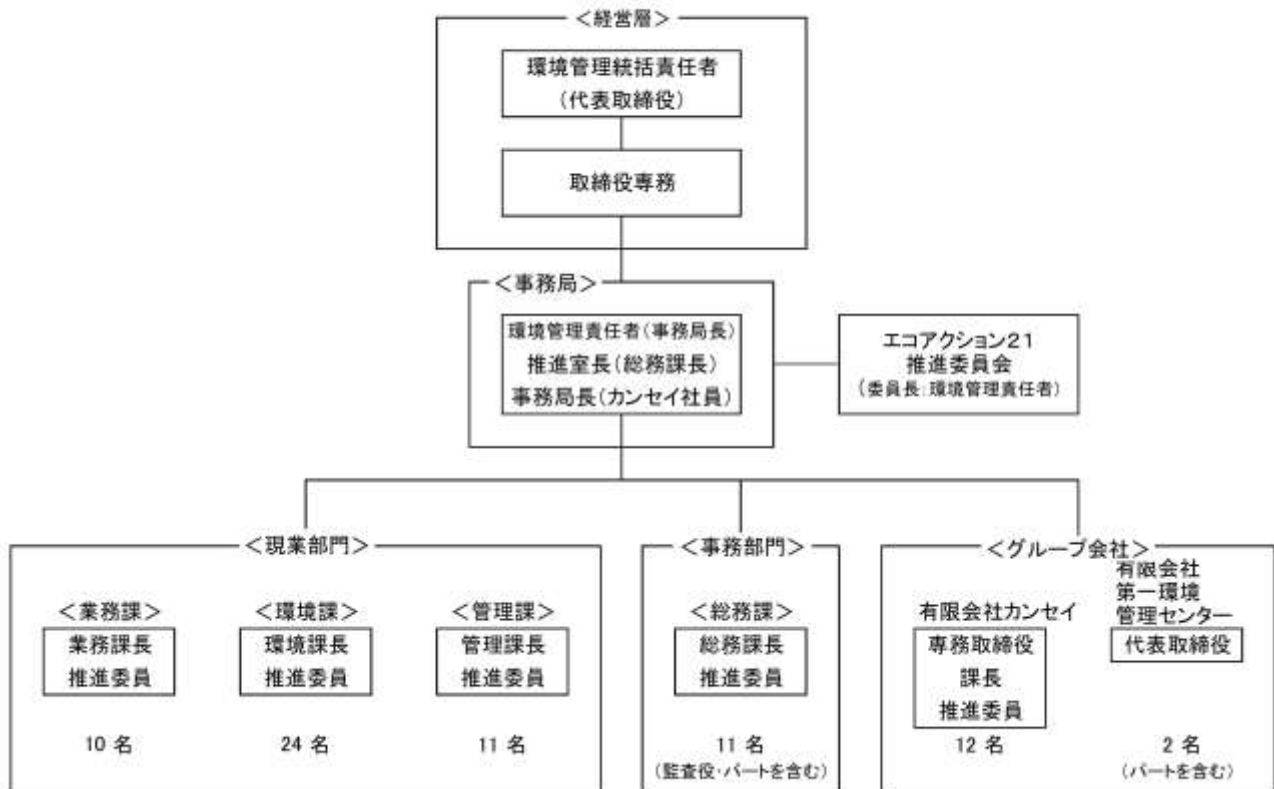
環境管理責任者	三神輝雄
TEL	0 2 4 6 - 5 4 - 2 8 3 8
FAX	0 2 4 6 - 9 2 - 5 5 0 5
URL	https://www.amenityiwaki.co.jp
e-mail	info@amenityiwaki.co.jp

(11)事業規模

資本金	1, 000 万円
従業員数	70人(役員4名、事務職8名、技術職55名、パート3名)
敷地面積	4, 231.17㎡
社屋延べ床面積	915. 89㎡
売上高	622,371千円(2024年1月期・単体) 809,722千円(2024年3月期・グループ合計)

(12)組織図

株式会社アムニティいわき エコアクション21実施体制及び業務体系



2024年6月1日現在

3. 環境方針

株式会社アメニティいわき 環境方針

【環境理念】

当社が、事業活動を行う「いわき」は、広大な市域面積を有し、東に太平洋、白砂青松の海岸線、西に阿武隈高地、そこに源を発するいくつもの河川など豊かで多様な自然資源に恵まれています。この環境を保全し次世代への継承と循環型社会を構築するために、社員一人ひとりが誠実に地域と連携して、資源の有効活用や廃棄物の再資源化に努め、安全・安心な環境サービスを行っていきます。

【行動指針】

1. 環境関連法規等の順守

事業活動に関わる環境関連法規・条例・協定など、当社が同意したその他の要求事項を遵守します。

2. 資源、エネルギー等の効率的な活用

水資源や電気・化石燃料等の消費による環境への負荷・資源枯渇等を認識し、省資源・省エネルギーの推進を図ります。特に浄化槽の清掃事業においては、当社開発の汚泥濃縮車を活用し、車両燃料の削減と浄化槽の処理水のリサイクルに努めます。

3. 廃棄物発生の抑制と再資源化の推進

自社内はもとよりお客様の廃棄物においても発生抑制や分別の徹底により再資源化を推進し、廃棄物の最小化と適正処理を進めます。

4. 汚染の予防及び継続的改善

環境の汚染に対し、様々な緊急事態を想定し訓練することで予防・緩和措置をとり、汚染の予防を実施します。また、環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムの継続的改善に取り組みます。

5. 全員参加による地球環境保護の実践

全社員が地球温暖化の現状や環境経営の意義・組織の環境方針を理解し、環境目標を設定して自ら積極的に実践します。また地域になくてはならない事業所として、社会や地域貢献活動・環境保護に努めます。

6. グループ会社の対応

当社事務所に同居する有限会社カンセイ・有限会社第一環境管理センターも一体となって、上記に掲げる環境活動を推進します。

■この環境方針は全従業員及びサイト内で働く全ての人に周知すると共に社外に開示する。



2017年2月1日

株式会社アメニティいわき
代表取締役 根本 宏

4. 環境負荷の現状

下の図は、エコアクションの認証へ向けて取り組み始めた2007年度を基準年（100%）とし、過去5年間の「二酸化炭素排出量」「総排水量」「廃棄物排出量」および当社の事業活動である「受託リサイクル量」の総量の実績である。

環境負荷項目	年度	2007	2018	2019	2020	2021	2022
	3社売上合計 (百万円)	596	738	811	798	755	742
二酸化炭素 排出量	排出量 (t/年)	371.5	427.2	427.3	411.9	429.5	445.5
	2007比	95%	109%	109%	105%	109%	113%
総排水量	排水量 (m ³ /年)	1,036	1,248	992	982	1,083	1,010
	2007比	102%	123%	98%	97%	107%	100%
廃棄物排出量	排出量 (kg/年)	467.77	403.78	526.06	461.78	476.06	478.99
	2007比	100%	86%	112%	99%	102%	102%
受託資源物の リサイクル量	受託量 (t/年)	949.0	2,114.5	2,064.6	1,991.0	2,479.1	2,087.2
	2007比	100%	223%	218%	210%	261%	220%

※二酸化炭素排出量の係数は東北電力発表のものを採用

5. 環境目標(3ヶ年)

環境負荷は事業活動の拡大、すなわち売上や保有する車両台数、また従業員数によって大きく影響される。アメニティいわきグループでは、エコアクション21を「環境経営システム」ととらえ、環境負荷を各年度の総売上高(百万円)で除して、数値化している。それによって、100万円を売り上げる際にどのくらい環境負荷をかけているか、言い換えれば、自分たちが効率のいい業務ができているかを評価することができる。2015年4月に環境省が策定した「エコアクション21 CO2削減プログラム」の手引きにも「必要に応じて総量だけでなく、売上高や生産高などを用いて原単位を分析するとより有効です。」と記載されている。

次ページの表は、2021年度を基準年(環境負荷数値／総売上高)とした、2024年度までの各年度の環境負荷指数(%)の目標一覧(環境目標)である。

環境目標一覧表(2021～2024 年度)

環境負荷項目	年度	2021(基準)	2022(目標)	2023(目標)	2024(目標)
二酸化炭素排出量	排出量(t/年)	429.50	425.21	420.91	416.62
	売上原単位(t/百万円)	0.569	0.563	0.557	0.552
	2021比(%)		99.0%	98.0%	97.0%
総排水量	排水量(m³/年)	1,186	1,174	1,162	1,150
	原単位(m³/車両台数)	18.25	18.06	17.88	17.70
	2021比(%)		99.0%	98.0%	97.0%
廃棄物排出量	排出量(kg/年)	476.06	471.30	466.54	461.78
	原単位(kg/社員数)	6.80	6.73	6.66	6.60
	2021比(%)		99.0%	98.0%	97.0%
化学物質使用量	使用量(kg/年)	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
グリーン購入	対象商品率	90%	90.0%	90.0%	90.0%
	2021比(%)		現状維持	現状維持	現状維持
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスについての環境配慮	エコドライブによる燃料削減	実施	実施	実施	実施
	環境関連クレーム発生数	0件	0件	0件	0件
受託リサイクル量	受託量(t/年)	2,479.1	2,503.9	2,528.7	2,553.5
	売上原単位(t/百万円)	3.28	3.32	3.35	3.38
	2021比(%)		101.0%	102.0%	103.0%
地域貢献活動の実施	回数(回/年)	2	2	2	2

※弊社グループで使用している化学物質には、
PRTR制度の届出対象となるものではありません。

6. 環境活動の主な取り組み

1. 二酸化炭素の排出抑制

エコサムを導入し、波状運転の低減を推進

2007年より40台にデジタコ(デジタルタコグラフ)を装着し、エコドライブに取り組んできたが、2017年11月、新たに全車両に「エコサム」を導入した。

この機器はGPS機能により車両の運行状況を把握し、波状運転・急発進・急ブレーキが数値化される。帰社後に専用PCに接続すると、ドライバーごとに運転レポートが作成され、運転のクセや指摘事項が発生した場所が表示される。毎月の全体朝礼で表彰を行い、社員のモチベーションアップにつなげている。



太陽光発電システムを導入

当社は2021年6月から社屋の増築工事を行い、12月に竣工した。その際、令和3年度福島県自家消費型再生可能エネルギー導入支援事業(脱炭素×復興まちづくり推進事業)補助金に交付申請し、採択された。具体的には、増築した社屋の屋上に88枚の太陽光モジュールを設置、また新しい従業員入口付近に蓄電池とV2X(※参照)を設置して、2022年7月から稼働している。蓄電池は災害時の電力に、V2Xは本年2月に納車された日産電気自動車・リーフに活用している。

※Vehicle to X(Everything)の略称・・・車と何か(車や歩行者、インフラ、ネットワークなど)との接続や相互連携を総称する技術のこと。



太陽光パネル



V2X(左)と蓄電池(右)

発電量の推移

下図は2023年4月から2024年3月までの太陽光発電の状況を示したものである。

発電量は太陽光モジュール(黄色)とV2X(緑)を合わせると、一年間で26,863kWhであり、換算される二酸化炭素削減量は12,813(t-CO₂/年)だった。東北電力から購入している電力量と合計した総合計のうち、太陽光による発電量は37.53%に及ぶ。

発電量は、その土地の日照時間や日射量によって左右されるが、当社があるいわき市小名浜は国内有数の日照時間が長い地域として知られ、夏期間は一日平均12時間以上の日照時間が得られている。

＜太陽光発電の推移(2023.4～2024.3)＞



2. 総排水量の削減

雨水タンクの使用

作業車両の洗車に使用する水使用量を抑制するため、雨水タンクの使用を心がけた。雨水タンクは当初2基だったが、現在は6基へ増設した。朝早い浄化槽清掃時には張り水として車両に入れたり、敷地内の洗車場を消毒した後には、すすぎ用の水として活用している。



雨水タンク

業務車両洗車の効率化

20年以上にわたり使用してきた洗車機を廃棄し、2013年秋には、据え付け式と移動式の洗車機を導入。効率的な使用方法を環境管理責任者の担当で研修した。特に毎日の業務終了後に必ず洗車を行うゴミ収集の部門では、洗車時間を決めて効率化に取り組んでいる。



3. 廃棄物排出量の削減

定められた分別マニュアルを順守し、分別容器を使用するなど、従来取り組んでいたもので、その徹底を継続した。また、なるべく社内にごみを発生させないようにし、社内から排出される可燃物重量を廃棄物全排出量の30%以内にするように取り組んでいる。

4. 化学物質使用量の削減

当社では化学物質を製造していないが、ゴミ収集車などの作業車両を洗車した後は、汚水枡内の水素イオン濃度(pH)を適正值に保つため、次亜塩素酸ナトリウム(ジアソー)を使用して希釈し下水道へ放流している。グループ会社である有限会社カンセイがトイレメンテナンス業務の際に使用している薬剤、有限会社第一環境管理センターで販売している高分子凝集剤及びソーダ灰については、いずれもPRTR制度の対象となる化学物質ではない。

5. グリーン購入

当社で購入する事務用品はグリーン商品を選んでいる。社員の作業着もエコマークがついている商品を購入し、毎年衣替えの6月と10月に配布している。その際、汚れやスリ切れなどがある作業着については、企業イメージアップも考慮して、社員から提出してもらい、古着を回収するNPO法人へ提供している。それらの古着は自動車の内装資材へリサイクルされている。

6. 自らが生産・販売・提供する商品及びサービスについての環境配慮

前述したエコサムを導入し、全員で波状運転をしないエコドライブに取り組み、燃料の削減につなげている。自然と安全運転になり、運転技術やマナーが向上している。それは廃棄物収集作業を行うことにも好影響をもたらし、作業に関する苦情やクレームもほとんど発生していない。

7. 受託資源物のリサイクル

事業系一般廃棄物のうち、缶、ペットボトル、段ボール・古紙などの資源物は専用車両で収集し、リサイクルの推進に努めている。また個人情報保護について近年さらにその徹底は求められており、目の前で機密文書を裁断する出張裁断車「エコポリスバン」はほぼ毎日稼働している。



出張裁断車「エコポリスバン」

8. 地域貢献活動

いわき市で主催している「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に6月と10月の年2回、全社員で参加している。そのほか、いわき市が主催するイベントである「リサイクルフェア」には2008年以来、災害及びコロナ禍に見舞われた数年を除き、ほぼ毎年出展している。



社員全員が集合して開始(2023年10月)



会社裏の公園もしっかりと(2023年10月)



終わって最後に側溝を確認(2023年10月)

7. 2023年度環境活動計画(単年度)の目標と実績

環境負荷項目	目標・実績	年度	2021(基準)	2023 目標(上段)実績(下段)
二酸化炭素排出量	目標	排出量(t/年)	429.50	420.91
		売上高単位(t/百万円)	0.569	0.557
		2021比(%)		98.0%
	実績	排出量(t/年)	429.50	443.72
		売上高単位(t/百万円)	0.569	0.548
		2021比(%)		96.3%
総排水量	目標	排水量(m³/年)	1,186	1,162
		原単位(m³/車両台数)	18.25	17.88
		2021比(%)		98.0%
	実績	排水量(m³/年)	1,186	1,056
		原単位(m³/車両台数)	18.25	16.25
		2021比(%)		89.0%
廃棄物排出量	目標	排出量(kg/年)	475.06	466.54
		原単位(kg/社員数)	6.80	6.66
		2021比(%)		98.0%
	実績	排出量(kg/年)	475.06	488.27
		原単位(kg/社員数)	6.80	7.08
		2021比(%)		104.1%
化学物質使用量	目標	使用量(kg/年)	適正管理	適正管理
		2021比(%)		100.0%
	実績	使用量(kg/年)	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標	対象商品率	90%	90.0%
		2021比(%)		現状維持
	実績	対象商品率	90%	90.0%
		2021比(%)		現状維持
自らが生産・販売・提供する製品及びサービスについての環境配慮	目標	エコドライブによる燃料削減	実施	実施
		環境関連クレーム発生数	0件	0件
	実績	エコドライブによる燃料削減	実施	実施
		環境関連クレーム発生数	0件	0件
受託リサイクル量	目標	受託量(t/年)	2,479.1	2,528.7
		売上高単位(t/百万円)	3.28	3.24
		2021比(%)		102.0%
	実績	受託量(t/年)	2,479.1	2,234.0
		売上高単位(t/百万円)	3.28	2.76
		2021比(%)		84.0%
地域貢献活動の実施	目標	回数(回/年)	2	2
		2021比(%)		
	実績	回数(回/年)	2	2
		2021比(%)		100%



目標達成!



目標達成!



目標未達



目標達成!



目標達成!



目標達成!



目標未達



目標達成!

8. 環境活動計画の取組結果と評価及び今後の取組計画

2021年度を基準年(環境負荷数値／総売上高)とし、2024年度まで中期目標(3ヶ年)を掲げ取り組んでいる。今項では、3ヶ年間の結果・評価・特記事項、また今後の取り組み計画について示す。

1. 二酸化炭素排出量削減

2023年度の目標は、売上高原単位で2021年度比2.0%(0.012t-CO₂/百万円)の削減を計画したが、結果として目標を上回る3.7%(0.021t-CO₂/百万円)減少した。(実績を表す青色の折れ線グラフが目標を表す赤色の折れ線グラフを下回っている)

太陽光発電が軌道にのってきたことと、売上が3社合計して初めて8億円を突破することができたことが大きな要因である。



今後の取組計画

太陽光発電や電気自動車の活用とともに、新調したエコサムを利用して今一度エコドライブへの意識を持って安全運転に励んで参りたい。

2. 総排水量削減

2023年度の目標は、売上高原単位で2021年度比2.0%(0.37m³/台)の削減を計画したが、目標を大きく上回る11.0%(2.00m³/台)の削減を達成することができた。車両台数はかわらないものの、効率的な洗車ができていると思われる。

今後の取組計画

新しい社員も増えてきたので、基本に徹した、かつ効率的な洗車方法について教育していきたい。

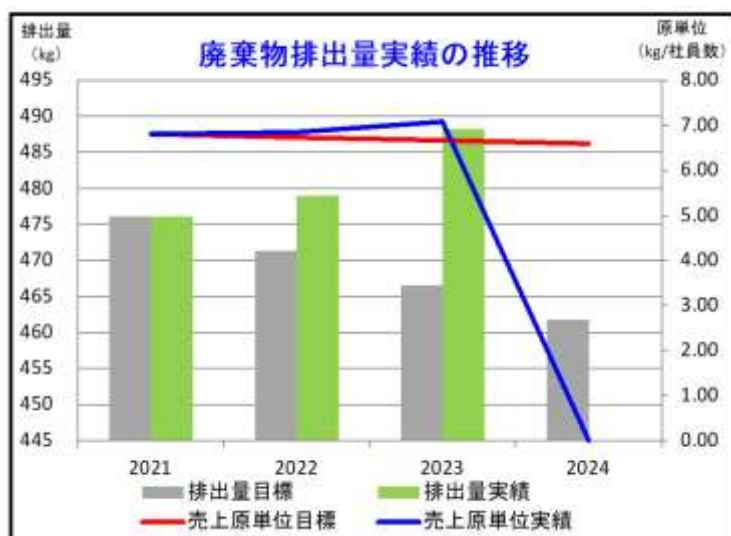


3. 廃棄物排出量削減

2023年度の目標は、社員数原単位で2021年度比 2.0%(0.14kg/人)削減することだったが、4.1%(0.28kg/人)と増加してしまった。分別の教育や徹底がされていないことなどが原因としてあげられる。

今後の取組計画

分別のルールを常に最新のものにし、再度社内にリサイクルを徹底し、社内ゼロエミッションへの検討を行う。



4. 化学物質使用量の削減

2023年度も当社では化学物質を製造していない。一方で、廃棄物の収集部門(環境課)で家電販売店等に販売しているハイメルト溶剤にPRTR法に該当する物質が含まれているが、ハイメルト溶剤の製造販売元との取引が終了したため、今後は該当する事案はなくなった。

今後の取組計画

ゴミ収集車などの作業車両を洗車する際に使用する次亜塩素酸ナトリウム(ジアソー)や、有限会社カンセイがトイレメンテナンス業務の際に使用している薬剤、有限会社第一環境管理センターで販売している高分子凝集剤・ソーダ灰について、その数量を把握できるように業務の工夫を検討する。

5. グリーン購入

事務部門で購入する事務用品はすべてグリーン製品だった。しかし購入する業務車両用のタイヤのうちリサイクル品ではなく新品のものがある。

今後の取組計画

来年度はもう一度事務用品及びタイヤその他業務で使用する商品を検討し、リサイクルされたものでなくとも、環境に配慮し製造された商品を積極的に使用していくことにしたい。

6. 自らが生産・販売・提供する商品及びサービスについての環境配慮

当社が提供する環境サービスには、お客さまや地域住民の皆様、行政関係者から高い評価を頂いている。また環境に関しての苦情やクレームも近年受けていない。またドライブレコーダーを全車両に搭載し、エコサムやアルコールチェッカーの導入など、社員の安全を守る具体的な方策を取っている。

今後の取組計画

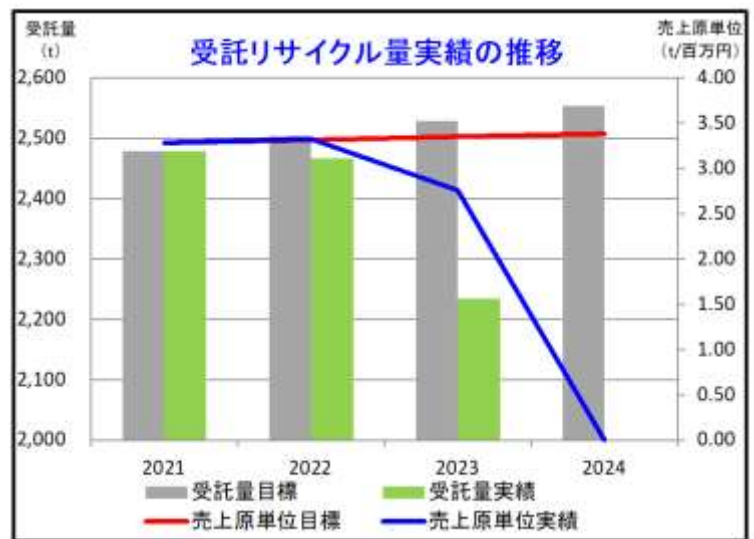
今春、エコサムを新機種に新調した。今一度、エコドライブの原点に立ち返って、社員全員で取り組んでいく。またドライブレコーダーについては、無作為に作業車両から取り外し、社員の運転状況について確認し、市民の皆様から信頼をより得られるような心構えや運転技術を指導していく。

7. 受託リサイクルの推進

当社オリジナルの取り組みだが、売上高原単位で2021年度比2.0% (0.07t/百万) 増加させるとの計画目標に対して、16.0% (0.52t/百万) の減少となり目標には、大きく未達だった。受託量が大きく減少したことが原因である。

今後の取組計画

引き続き当社の顧客にさらなる分別とリサイクルを啓蒙し、循環型社会構築の活動を大きく推進していきたい。



6. 地域貢献活動

2022年から毎月4月、小名浜第一小学校4年生の遠足コースになり、当社のリサイクル事業の様子をごらんいただいている。ごみ搬入の体験や実際に運転席に座ってみるなど、小学生とともに社員も充実した楽しい時間を過ごすことができた。

コロナ禍で実施されていなかった「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」にも参加。いわき市主催の「リサイクルフェア」は豪雨被害の影響で開催されなかったが、出展した年は、市民から好評の声をいただいている。



今後の取組計画

今後もさらに地域に根ざした環境活動を行っていききたい。

暮らしを、まちな、もっとキレイに。



9.表彰等

「福島議定書」事業で最優秀賞(県知事賞)を受賞

平成22年には「福島議定書」事業の事業所版「運輸・設備業」部門で「最優秀賞」(福島県知事賞)を受賞した。



「ごみ減量化コンクール」優秀賞を受賞

平成23年には福島県「ごみ減量化コンクール」取組部門で「優秀賞」を受賞した。



「エコアクション21認証・登録10年継続事業者表彰

平成31年、「エコアクション21認証・登録10年継続事業者表彰」を受けた。



10. SDGs宣言書を策定

東邦銀行様の支援を受け、当社は2023年2月1日にSDGs宣言書を策定した。



TOHO NEWS LETTER

2023年2月1日

株式会社アメニティいわき様が「SDGs宣言書」を策定されました！
～「とうほうSDGsサポートサービス」による「SDGs宣言書」策定支援～

東邦銀行（頭取 佐藤 登）は、お客さまのSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）に関する取組みを支援するため、「とうほうSDGsサポートサービス（以下、本サービスとします）」をご提供しております。

この度、本サービスの利用を通じ、株式会社アメニティいわき様が「SDGs宣言書」を策定されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

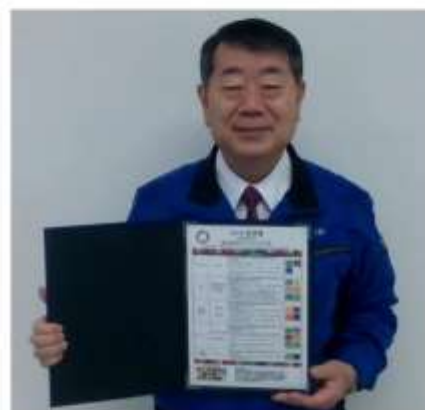
本サービスは、ヒアリングを通してお客さまのSDGsへの取組状況の確認と、経営課題の見える化を行うことで、お客さまの課題解決に向けた具体的な取組みをサポートしております。

また、診断結果に基づく「SDGs宣言書」の作成により、お客さまの特色ある取組みを発信するとともに、社会全体でのSDGsの機運を高めております。

当行では、引き続きお客さまのニーズに応じたサービスを提供し、お客さまの成長・発展、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

記

発行企業	株式会社 アメニティいわき
代 表 者	代表取締役 根本 宏
所 在 地	いわき市小名浜君ヶ塚町 5-9
事業内容	一般・産業廃棄物処理業
企業概要	○一般・産業廃棄物の回収や浄化槽の適切な維持管理を通じて、地域のために迅速で安全・安心な環境サービスを提供しております。 ○再生可能エネルギーの導入や環境美化活動による地域社会への貢献等を通じて、SDGsの目標達成に向け取組んでおります。



宣言書を手にする根本社長



東邦銀行グループでは、『とうほうSDGs宣言』を制定し、グループ全体で地域経済の活性化や社会的課題の解決に向けた取組みを通して“地域社会に貢献する会社へ”を目指しています。

東邦銀行



SDGs宣言書

2023年2月1日

株式会社アメニティいわき

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けた取組みを以下の通り宣言します。

カテゴリ	テーマ	具体的な取組み	SDGsゴール
人権・労働	安全衛生	従業員・お客さまの安全を第一に、良質な労働環境の整備に努めております。 【具体的な取組み】 ・毎日の安全作業チェックを実施しております。(健康、アルコールチェック、免許証、体温、みだしなみ、車両点検) ・ヒヤリハットの状況等をもとに、KYT(危険予知トレーニング)を毎月実施しております。 ・毎月1回、労働安全衛生委員会を開催し、現場調査の実施や労働安全、衛生面の意識向上に努めております。	3 気候変動 8 持続可能な消費と生産 16 平和と公正
環境	廃棄物の削減 脱炭素・省エネ 水資源	クリーンな事業活動を通じて、適正な資源の循環及び有効活用に積極的に取組み、環境の保全と循環型社会の実現に貢献しております。 【具体的な取組み】 ・廃棄物の発生抑制や分別の徹底により再資源化を推進し、廃棄物の最小化と適正処理に取り組んでおります。 ・太陽光発電設置によりカーボンニュートラルの実現を目指しております。 ・一人一人が節水を意識し、事業活動における水使用量の削減に取り組んでおります。 ・浄化槽の適正な維持管理により、水質の維持・改善に取り組んでおります。 ・地域の水資源保全のため、単独から合併浄化槽への入替を推進しております。 ・すべての人が安全・安心に使えるトイレを「トイレ診断士」が提供しております。	6 安全な水と衛生 7 再生可能エネルギー 11 持続可能な都市とコミュニティ 12 持続可能な消費と生産 14 海の豊かさ 15 陸の豊かさ
内部管理 組織体制	環境経営 法令遵守	廃棄物の収集運搬や浄化槽の保守点検清掃等、環境保全に貢献する企業としてコンプライアンス遵守の徹底を図ってまいります。 【具体的な取組み】 ・資源の有効活用と省資源・省エネ・CO2排出量削減に取組み、環境の保全と循環型社会の実現に貢献してまいります。 ・ISO14001・エコアクション21を通じて、環境経営を実践し、環境関連法規・条例・協定を遵守してまいります。 ・プライバシーマーク取得企業として、お客さま及び従業員の個人情報について適切な保護措置を講じてまいります。	7 再生可能エネルギー 8 持続可能な消費と生産 9 産業、イノベーション、インフラ 17 パートナリーシップ
製品・サービス	品質・安全性の確保 環境配慮設計	高品質かつ安全なサービスの提供と環境に配慮した車両の開発・活用により、住みやすい地域社会の実現に貢献しております。 【具体的な取組み】 ・部署毎に環境目標を設定し、従業員の知識、技術、サービスの向上に取り組むとともに、目標達成に向けた計画の定期的な監査と見直しを実施し、継続的に改善しております。 ・「お客さまに喜んで頂く10項目」を掲げ、環境に配慮したサービスを提供しております。 ・当社開発のS・N式汚泥濃縮車を活用し「車両燃料、投入汚泥量の削減」と「浄化槽処理水のリサイクル」に努めております。	3 気候変動 4 質の高い教育 8 持続可能な消費と生産 11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動 15 陸の豊かさ
社会貢献 地域貢献	地域づくり	地域に根ざした企業として地域の環境美化活動に積極的に取組んでまいります。 【具体的な取組み】 ・地域の清掃活動(いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動)や不法投棄廃棄物撤去活動へ積極的に参加してまいります。	15 陸の豊かさ 17 パートナリーシップ



SDGsとは

「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称です。2015年9月、国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で設定された、2030年を期限とする17のゴール(目標)と169のターゲットのことで、2030年までに、あらゆる貧困に終止符を打ち、不平等を是正し、気候変動に対処するなど「誰一人置き去りにしない」ための取組みを掲げています。

11. 代表者の全体評価と見直しの結果

太陽光発電は発電量も多く、二酸化炭素削減量に換算すると13トン近くに及び、社内にも効果的に活用されている。今後もよりよい運用をすすめていきたい。

一方で、老朽化に原因があるとはいえ車両の故障が散見される。また最近では緊急対応を行う事案もあり、環境保護についての教育の必要性を感じる。社員ひとりひとりが成長し、会社としても地域社会に貢献できるよう努力していきたい。

12. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無

主な適用法令	遵守事項
廃棄物の処理及び清掃に関する法律、同施行令	排出事業者の責任、産業廃棄物管理票(マニフェスト)の保存、送付及び回付、排出事業者による処理状況の確認努力義務、産業廃棄物処理業の許可、運搬車を用いて行う産業廃棄物の収集又は運搬に係る基準、運搬受託者の記載事項、運搬受託者の管理票交付者への送付期限、管理票交付者の報告書等
いわき市廃棄物の減量及び適正処置等に関する条例	一般廃棄物収集運搬業等の許可申請、浄化槽清掃業許可申請書等、(従業員証の発行等)、実績報告書の提出
浄化槽法	浄化槽清掃業の許可、浄化槽工事業に係る登録、変更の届出、浄化槽工事士の設置等、標識の掲示、帳簿の備付け等
福島県浄化槽保守点検業者登録条例	浄化槽保守点検業者の登録等、登録証の書換え、営業所の設置等、研修の機会の確保、業務の実施、登録証の掲示、帳簿の備付け等
いわき市下水道条例	指定工事店の申請及び指定
フロン排出抑制法	簡易点検等

グループ会社も含め、環境関連法規への違反はなかった。さらにグループ会社の遵守状況もチェックした結果、問題はなかった。関係当局より違反の指摘も過去3年間ない。お客様及び地域近隣住人からの訴訟・苦情等もなかった。

暮らしを、まちな、もつとまにすに。



13. 許可の内容

【福島県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業（積替え及び保管行為を含まない。）
許可番号	第00709004940号【優良】
許可年月日	令和5年12月1日
許可有効期限	令和12年7月14日
産業廃棄物の種類	①燃え殻、②汚泥、③廃油、④廃酸、⑤廃アルカリ、⑥廃プラスチック類、⑦木くず、⑧繊維くず、⑨動植物性残さ、⑩ゴムくず、⑪金属くず、⑫ガラスくず、コンクリートくず（工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶磁器くず、⑬がれき類（これらのうち石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を含み、自動車等破砕物、水銀含有ばいじん等及び特別管理産業廃棄物を除く。）以上13種類
事業の範囲	福島県

【茨城県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業（積替え及び保管行為を含まない。）
許可番号	第00801004940号
許可年月日	令和2年5月28日
許可有効期限	令和7年2月14日
産業廃棄物の種類	①汚泥、②廃油、③廃プラスチック類（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物を含む。）④木くず、⑤ゴムくず、⑥金属くず（自動車等破砕物を除く。）、⑦ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破砕物を除き、石綿含有産業廃棄物を含む。）、⑧がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む。）以上8種類
事業の範囲	茨城県

【栃木県】

事業の区分	産業廃棄物収集運搬業（積替えを除く。）
許可番号	第00901004940号
許可年月日	令和3年4月9日
許可有効期限	令和8年4月8日
産業廃棄物の種類	（当該産業廃棄物に石綿含有産業廃棄物、水銀使用製品産業廃棄物又は水銀含有ばいじん等が含まれる場合はその旨）積替えを除くもの。 ・廃プラスチック類
事業の範囲	茨城県

【いわき市】

事業の区分	一般廃棄物収集運搬業（積替え及び保管を除く。）
許可番号	第23013号
許可年月日	令和5年9月4日
許可有効期限	令和7年8月31日
一般廃棄物の種類	粗大ごみを含むごみ、し尿、浄化槽に係る汚泥
事業の範囲	いわき市

14. 施設等の状況(収集運搬)

○運搬車両の種類と台数

塵芥車 16台 ダンプ 1台 脱着装置付コンテナ専用車 4台 冷蔵冷凍車 1台
出張裁断車 1台 キャブオーバ 3台 強力吸引車 1台 糞尿車 7台 汚泥濃縮車 1台
計 35台



塵芥車(パッカー車)



ダンプ



脱着装置付コンテナ専用車



冷蔵冷凍車



出張裁断車(エコポリスパン)



強力吸引車



糞尿車



浄化槽汚泥濃縮車

15. 廃棄物処理料金

処理料金＝収集運搬料金＋処分料金 となる。なお見積りは無料にて行っている。

①収集運搬料金について

NO	車種	いわき市内	いわき市外(福島県内 郡山市を除く)
1	2t車	15,000円	20,000円～
2	2t脱着車	15,000円	20,000円～
3	4tクレーン付脱着車	25,000円	30,000円～
4	3tパッカー車	25,000円	30,000円～
5	4tパッカー車	30,000円	35,000円～

※地域によって別途の料金設定になることがある。

※高速道路使用時には料金が追加となる。

※消費税が別途加算される。

②処分料金について

NO	受入品目	単位	処分単価
1	混合廃棄物	m ³	6,500円～
2	汚泥	kg	25円～
3	廃油	kg	20円～
4	廃プラスチック類	m ³	6,000円～
5	木くず	m ³	4,000円～
6	動植物性残さ		現状確認後、ご相談の上
7	ゴムくず	m ³	6,000円～
8	金属くず	m ³	0円～家電リサイクル法の対象製品は別途
9	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	m ³	6,000円～
10	がれき類	t	2,000円～

※荷の状態等により、別途の料金設定になることがある。

※袋等に分けてある場合、料金について考慮される。※消費税が別途加算

③グリストラップ清掃料金について

NO	作業種類	単位	処理単価	条件
1	定期作業	m ³	25,000円～57,000円	0.3m ³ ～1.0m ³ まで
2	スポット作業	m ³	32,000円～65,000円	0.3m ³ ～1.0m ³ まで

16. 受託した廃棄物の処理量

2023 年度(2023 年 4 月 ～2024 年 3 月)

産業廃棄物収集運搬

廃棄物等種類	処分方法等	処理量 (t)
燃え殻		0.00
汚泥		118.84
廃油		1.98
廃酸		0.00
廃アルカリ		0.00
廃プラスチック		102.09
木くず		21.45
繊維くず		0.00
動植物性残さ		0.24
ゴムくず		0.00
金属くず		61.86
ガラス・コンクリート・陶磁器くず		1.68
がれき類		17.59
廃石綿等		0.00
合計		325.74

一般廃棄物収集運搬

廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)
可燃物	市の清掃センターにて焼却	4,354.70
不燃物	埋め立て	0.75
缶	リサイクル	162.91
ビン		130.53
ペットボトル		111.12
ダンボール		1,229.73
新聞紙		54.12
古紙		62.31
シュレツダー紙		49.45
紙管		0.00
機密文書		229.94
軟質プラスチック		176.34
硬質プラスチック		27.50
合計		6,589. 41

暮らしを、まちなを、もっとキレイに。



株式会社アメニティいわき

発行日 2024年6月15日

住 所 〒971-8168

福島県いわき市小名浜君ヶ塚町5の9

TEL 0246(54)2838

FAX 0246(92)5505

E-mail info@amenityiwaki.co.jp

発行責任者 三神輝雄(環境管理責任者)